

KONISHI REPORT

2019 CSR報告書

ステークホルダーの皆様へ



当社は 1870 年に薬種商として創業して以来、時代の要請に応じて新たな分野を開拓しながら今日の姿を築いてきました。今日、企業が取り組むべき社会的課題が多々ある中、社会的責任（CSR）の重要性が強く叫ばれております。

当社としてもコンプライアンスの遵守や、化学品を扱う事業を営む立場として環境への配慮が経営の基本であることを自覚し、行動等にも一段と努力を重ねてまいりました。

コニシグループにおける全従業員の使命は「社会の発展に貢献する」ことです。この使命を実現するためには、持続的に成長していくことが重要であり、現在は 2021 年 3 月期を最終年度とする新中期経営計画のなか、事業活動に邁進しています。

私たちは、法令遵守はもちろんのこと、時代の求める製品・サービスの提供を通してすべてのステークホルダーに信頼される企業になることを追求していきます。

コニシ株式会社
代表取締役社長

横田隆

各データの報告対象期間

2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日（2018 年度）

報告対象となる事業と組織

コニシグループの事業は「ボンド」「土木建設」「化成品」「その他」の 4 セグメントからなり、この 4 事業のすべてを報告対象としています。ただし、関連会社については連結対象子会社 18 社の内、報告対象期間に 100% 出資会社であり、前年度実績が算出可能な 4 社を取り上げています。報告対象となる会社は右記のとおりです。

ボンド

コニシ（株）／水口化学産業（株）／
ボンドケミカル商事（株）／ボンド販売（株）

土木建設

コニシ（株）／ボンドエンジニアリング（株）

化成品

コニシ（株）

その他

コニシ（株）

CSR 経営の取り組み

コンプライアンスを徹底し、企業価値のさらなる向上に努めます。

経営理念

コニシ株式会社は「堅実且つ積極的な経営」と「品質第一」を信条として
絶えず新しい価値の創造をめざし社会の発展に貢献する。

行動憲章

1. 信頼の獲得

社会的に有用な製商品・サービスを、安全性と品質に充分配慮して開発・提供するとともに個人情報・顧客情報を適正に保護し、消費者・顧客の満足と信頼を獲得する。

2. 公正な競争

公正、透明、自由な競争並びに適正な取引を行い、政治・行政との健全かつ正常な関係を保つ。また、自社の知的財産の保護と第三者の知的財産の尊重に努める。

3. コミュニケーション

株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを図り、企業情報を積極的かつ公正に開示する。

4. 職場環境

従業員の多様性、人格、個性を尊重し、安全と健康のため、快適な職場環境を実現する。

5. 環境保全

環境問題は人類共通の課題であり、社会の発展に必須の要件であることを認識し、自主的・積極的に取り組む。

6. 社会貢献

「良き企業市民」として、積極的に社会貢献のため活動する。

7. 反社会的勢力との対決

市民社会の秩序や安全に脅威をあたえる反社会的勢力および団体とは断固として対決する。

8. 海外活動

海外においては、国際ルールや現地の法令の遵守はもとより、文化や慣習も尊重し、その発展に貢献する。

9. 企業倫理の徹底

経営者は、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、社内やグループ企業に徹底するとともに、取引先に周知させる。

また、社内外の声を常時把握し、実効ある社内体制の整備を行うとともに、企業倫理の徹底を図る。

10. 問題の解決

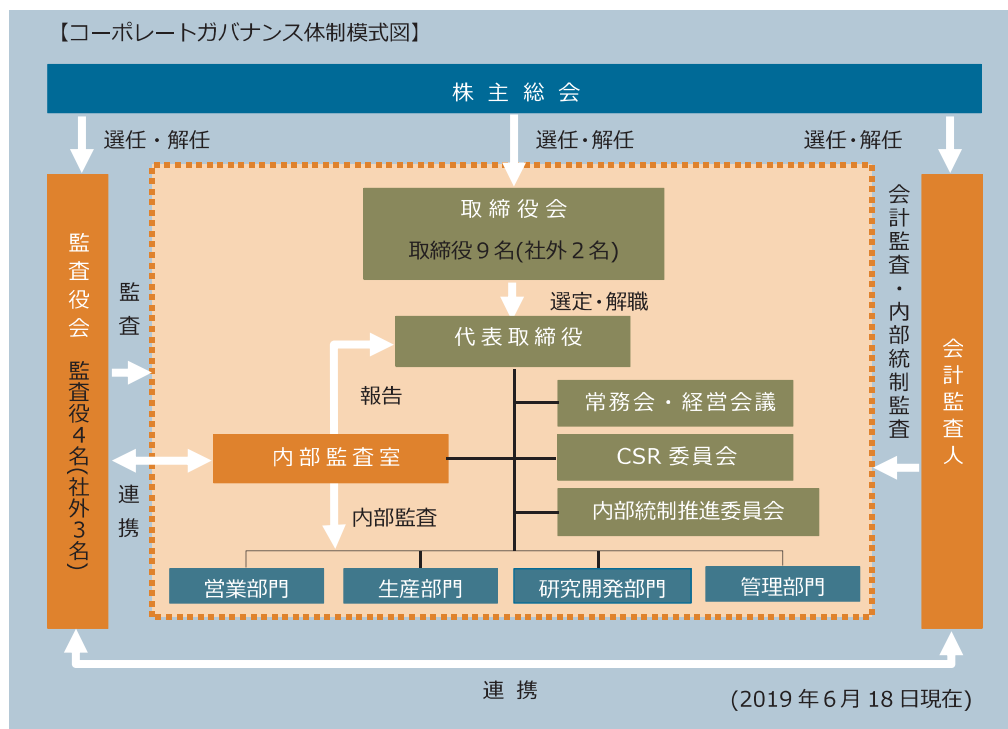
本憲章に反するような事態が発生した時には、経営トップ自らが問題解決にあたる姿勢を内外に明らかにし、原因究明と再発防止に努める。また、社会への迅速かつ的確な情報の公開と説明責任を遂行し、権限と責任を明確にした上、自らを含めて厳正に処分する。

■経営統治システム

迅速な意思決定と監視・監督体制を強化しています。

取締役の人数は9名であり、うち社外取締役は2名であります。取締役会は毎月1回、必要に応じ常務会を開催しています。また執行役員制度を採用しており、取締役、執行役員で構成された経営会議を毎月開催し、経営の意思決定の迅速化、透明性および公平性の確保を行っています。必要に応じて執行役員を取締役会に出席させ、業務の執行状況を報告させています。

監査役の人数は4名であり、全員取締役会に出席し、会社の運営および各取締役または各執行役員から業務の執行状況を聞き、必要に応じて意見を述べるなど監視・監督を行っています。監査役のうち社外監査役は3名であり、より第三者的な立場から監査機能を発揮していると考えています。このため社外からの監視・監督は十分に機能する体制であると考えています。



■内部統制・コンプライアンス

コンプライアンスの基本となる内部統制システムを構築しています。

「CSR 委員会」を中心として「リスク管理委員会」「安全保障貿易管理委員会」「環境委員会」「製品安全委員会」等を全社横断的に組織させ、それぞれの機能別にリスクマネジメント、コンプライアンスおよび倫理性、透明性をチェックしています。

また「内部統制推進委員会」において、内部統制制度の整備、評価、推進等を行っています。

法令遵守、公正性、倫理に基づいた行動で、企業価値の向上と継続的な発展をめざしています。

取締役は、その職務の執行が法令および定款に適合することを確保するため、当社の「行動憲章」「行動規範」に従い、企業倫理および法令の遵守並びに浸透を率先垂範して行っております。また CSR 委員会を設け、コニシグループのコンプライアンス体制の整備と徹底を図っています。

「行動憲章」「行動規範」「行動規範ガイドブック」

コンプライアンスの充実のため、当社グループで働くすべての人が守らなければならないルールを「行動憲章」「行動規範」としてまとめました。さらに「行動規範」の理解を深めるため、解説書形式で「行動規範ガイドブック」を作成して、それらを当社グループのすべての人に配布し周知徹底を行っています。

環境マネジメント

環境に関する経営基本方針を定め、全社に周知徹底させています。

環境・安全に関する経営基本方針

コニシ株式会社は経営理念、経営方針に基づいて、研究開発、生産、物流、販売等事業活動の全ての場面において環境・安全に関して以下の事項を最優先事項として認識する。

- | | |
|---|---|
| <p>1. 顧客が安心して使用し、かつ満足できる品質の製商品、サービスを提供する。</p> | <p>4. 原料、副資材、製品の安全性を確認し、一般消費者、顧客、流通関係者、従業員等関係する人々の健康と安全を図る。</p> |
| <p>2. 商品の開発から廃棄に至るまでの全段階にわたり、環境負荷の低減に努める。</p> | <p>5. 無事故・無災害を目指し、地域社会と関係者及び従業員の安全を確保する。</p> |
| <p>3. 省エネルギー、省資源、リサイクルに努め、地球環境保全を図る。</p> | <p>6. 環境・安全関連情報を社内外に公表し、社会とのコミュニケーションの充実に努める。</p> |

全従業員はこの方針の重要性を認識し、法令及び規格を遵守することはもとより、常に改善・改良に努力する。

■法令の遵守（コンプライアンス）

当社は、研究開発・製造部門の環境保全活動の指針として、2000年9月に制定した「環境管理マニュアル」に基づいた取り組みを推進しています。このマニュアルでは「環境に関する法律・条例およびコニシ株式会社が同意する協定等を遵守し、積極的に環境保全に努める」ことを活動方針と定めて、工場、研究所および関係会社を含む当社グループの全従業員に周知徹底を図っています。

また自社基準として「大気汚染防止実施基準」「水質汚濁防止実施基準」「騒音・振動防止実施基準」「化学物質管理基準」「廃棄物管理基準」「毒物及び劇物危害防止基準」を定め、これに則った監視・測定を行っています。

■環境対応型製品 開発への取り組み

当社は、環境負荷の少ない製品を開発・販売することが社会的責任と考えています。製品の無溶剤化や水性化、より安全に使用できる原料への転換、また環境負荷の低い容器の開発等にも力を注いでいます。

2018年度の環境製品販売比率は78%となっており、今後も環境対応型製品の普及に努めていきます。



環境対応型製品「2 way パック/アブリバックシリーズ」

■環境マネジメント推進体制

「環境・安全に関する経営基本方針」を全社的な統一指針として、具体的な環境保全活動を組織的に運営していくため 1998 年 7 月に「環境委員会」を設置しました。この環境委員会が策定する各種環境活動方針の決定を受けて、全社的な委員会や各事業所単位での委員会が実働機関として活動を行っています。

各工場の環境委員会では ISO14001 の維持、更新を目的として環境保護・保安防災・労働安全衛生を対象とした活動を行っています。また、製品安全委員会では、製品安全に関する課題を審議し、製品の安全性向上と環境負荷低減を推進することを目的とした活動を行っています。

工場別環境データ

◆環境負荷

	地球温暖化物質排出量 (t-CO ₂)	総排水量(千m ³)	COD(t)	廃棄物発生量(t)
滋賀工場	5,016	37	9.9	1,316
栃木工場	2,646	21	0.08	421

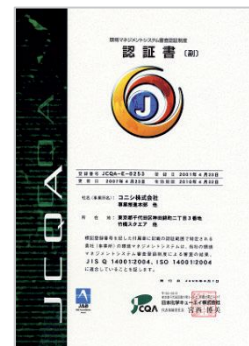
◆PRTR 該当物質（第一種）排出量・移動量の集計

	対象化学物質名	移動量・排出量合計 (kg/年)
滋賀工場	酢酸ビニル(モノマー)	4,675
	有機スズ化合物(Sn として)	427
	メタクリル酸メチル	380
	モノエタノールアミン	262
	トルエン	227
	アクリル酸(n-)ブチル	214
	ヘキサン(n-ヘキサン)	138
	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)[DOP]	135
	フタル酸ジ-ノルマル-ブチル[DBP]	115
	1,2,4-トリメチルベンゼン（プソイドキュメン）	103
	その他	437
栃木工場	メチレンビス（4，1－フェニレン）＝ジイソシアネート	1,115
	トルエン	198
	その他	127

■ISO14001 認証取得状況

当社ではすべての製造拠点、研究開発拠点で環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」を取得し、環境負荷低減に向けて組織的・継続的に取り組んでいます。

審査登録日	事業所	事業所審査登録の対象および範囲	認証機関	認証番号
2001年4月23日	滋賀工場	各種接着剤・ワックス及びシーリング材の開発と製造並びに、工業薬品・合成樹脂・電子材料の仕入、販売	日本化学 キューエイ（株）	JCQA-E-0253
2002年5月27日	生産管理部			
2002年5月27日	栃木工場			
2003年2月24日	大阪研究所			
2003年2月24日	浦和研究所 材料科学研究所			
2008年3月24日	化成品営業部			



■品質マネジメントシステム ISO9001

基本方針

当社は品質方針を「生産者が1万本つくった商品でもお客様には買った1本がすべて」と定め、「品質第一」を信条とした顧客の要求する品質および法規を満足する品質の製品を提供できる品質システムで運用しています。

ISO9001 自己適合宣言

コニシ株式会社は、平成24年5月12日付で、品質管理に関する国際規格である「ISO9001」に適合した品質マネジメントシステムを、自らの意思と責任において運用・維持していくことを宣言しました。当社は、平成9年5月にボンド営業本部・滋賀工場・浦和研究所・大阪研究所においてISO9001を認証取得し、続いて同年12月に栃木工場が認証を取得しました。その後ISO9001の精神のもと、お客様にご満足いただける製品づくりに全社を挙げて取り組んでまいりましたが、15年間の運用実績と成果を踏まえ、この度のISO9001自己適合宣言となりました。今後も「品質第一」を信条として、品質管理体制の一層の強化を図るとともに、お客様にご満足していただける製品・サービスを提供してまいります。

■環境教育・啓発活動

当社の「環境管理マニュアル」では、「すべての従業員に対して、環境マネジメントシステムを確実に運用し、実践するために必要な教育・訓練および自覚のための実施手順を定め維持する」ことを定めています。

この方針に基づいて、リサイクルの重要性、廃棄物の分離分別、自然環境の保護やCO₂削減、SDS記載内容などに関する教育を実施しています。



■リスクマネジメント

化学工場における火災や化学物質流出などの災害は、従業員だけでなく周辺住民を巻き込んだ災害につながる危険性があります。当社では、万一の事故や地震の災害に備えて、緊急事態発生時の対応手順を定め、定期的に訓練を実施しています。工場・研究所においては化学物質の漏洩を想定した訓練をし、万一漏洩がおこった場合、工場・研究所外への流出を防ぐ施策を構築しています。また、地域住民への対応や連絡体制を整備し、緊急事態における情報開示体制を構築しています。



環境活動計画

化学メーカーとして、環境負荷を抑制する取り組みを継続します。

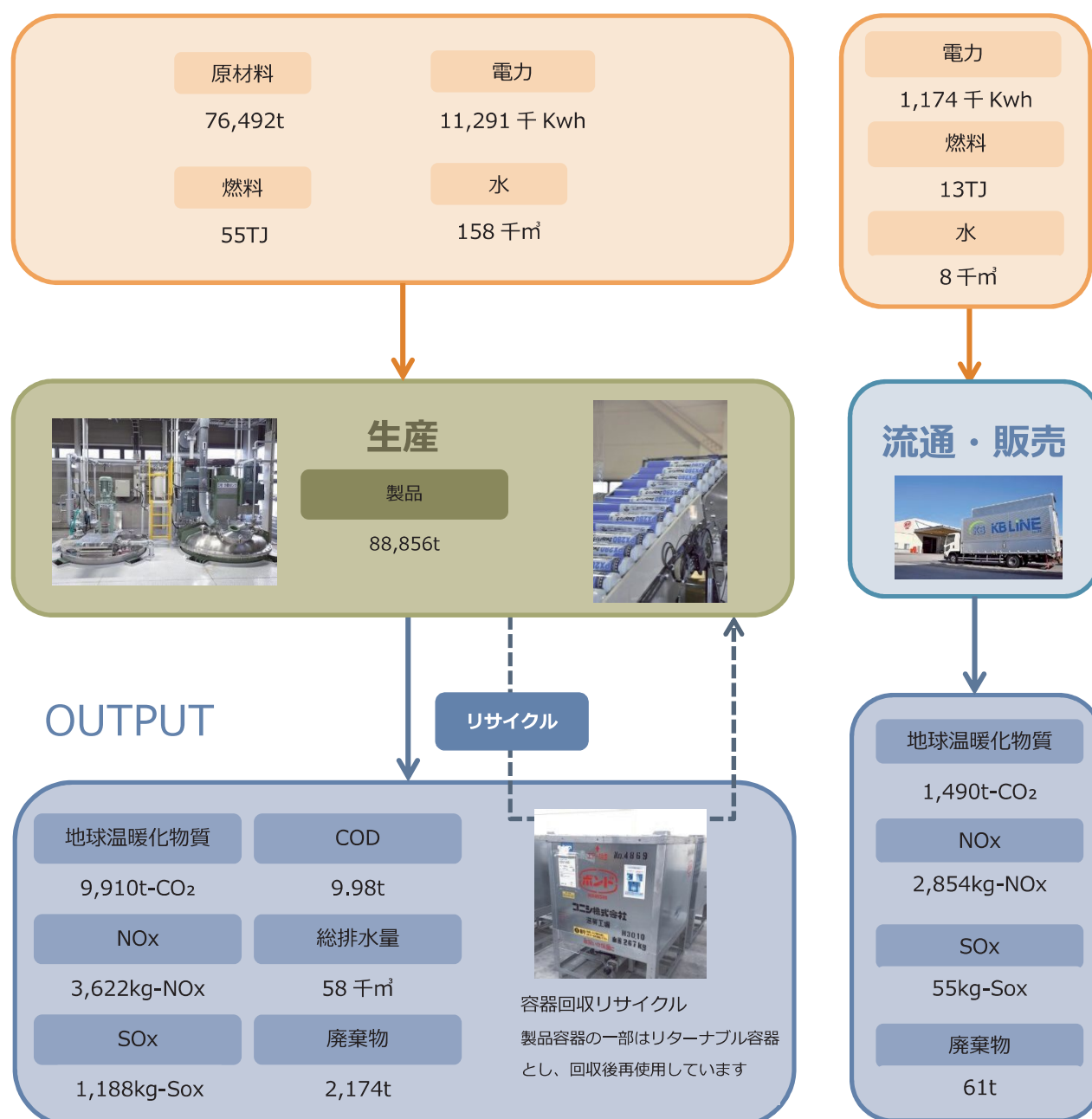
■環境負荷の全体像（INPUT と OUTPUT）

当社では事業活動における環境への負荷を各部門で数値的に把握し、事業全体での環境負荷の効果的な低減をめざした施策を実施しています。この図は 2018 年度に投入した資源量（INPUT）と排出した環境負荷量（OUTPUT）を製品ライフサイクルの流れに沿って表したものです。

INPUT

【生産工場における事業活動と環境負荷】

【営業所における環境負荷】



■目標と結果

2018年度の「環境保全活動計画」では、各工場の「CO₂排出量」「廃棄物発生量」とグループ全体における「エネルギー消費量」「地球温暖化物質排出量」「NO_x排出量」「SO_x排出量」「廃棄物発生量」のそれぞれについて2017年度の1.0%削減を目標に掲げました。

2018年度の実績は、エネルギー消費のCO₂排出量に関しては、栃木工場、滋賀工場ともに目標を達成しました。また廃棄物発生量については、栃木工場では目標を達成しましたが、滋賀工場では法規制改定による製品廃棄が発生したため目標未達となりました。

グループ全体については、生産効率の向上や環境負荷抑制の取り組み推進により、「エネルギー消費量」「地球温暖化物質排出量」「NO_x排出量」「SO_x排出量」の項目で目標達成となりましたが、「廃棄物発生量」は先述した製品廃棄が発生したため目標未達となりました。

2019年度の計画は各項目でそれぞれ2018年度実績の1.0%減となっています。効率的なエネルギーの使用に努め、原単位での目標達成に努めてまいります。

◆2018年度 目標と実績

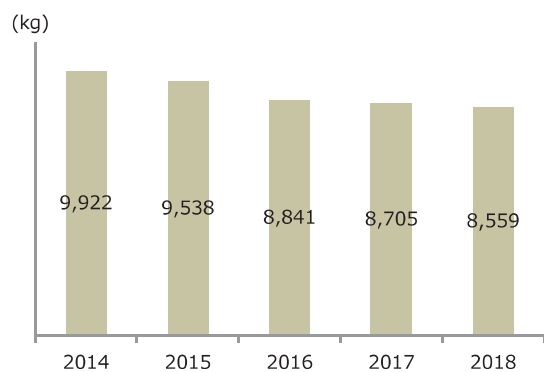
達成度：◎=105%以上 ○=100%以上 △=95%以上 ×=95%未満

	項目	事業所	2018年度目標値 [2017年実績1.0%減]	2018年度実績	目標達成度	2019年度目標値 [2018年実績1.0%減]
工場別	CO ₂ 排出量	栃木工場	119.99	114.99	○	113.84
		滋賀工場	103.22	95.12	◎	94.17
		合計	108.47	101.16	◎	100.15
	産廃物発生量	栃木工場	0.01919	0.01829	○	0.01811
		滋賀工場	0.02322	0.02496	×	0.02471
		合計	0.02195	0.02293	△	0.02270
コニシグループ全体	エネルギー消費量	(TJ)	--	191	○	--
		(MJ/ t 販売数量)	1,956	1,872		1,853
	地球温暖化物質排出量	(TJ)	--	11,400	○	--
		(kg-CO ₂ / t 販売数量)	117.1	111.9		110.8
	NO _x 排出量	(TJ)	--	6,475	○	--
		(kg-NO _x / t 販売数量)	0.06545	0.06358		0.06294
	SO _x 排出量	(TJ)	--	1,243	◎	--
		(kg-SO _x / t 販売数量)	0.01315	0.01220		0.01208
	廃棄物発生量 (一般廃棄物含)	(TJ) (t / t 販売数量)	-- 0.02116	2,235 0.02195	△	-- 0.02173

■環境関連詳細データ

化学物質管理(PRTR)

◆PRTR 法対象物質の排出量・移動量

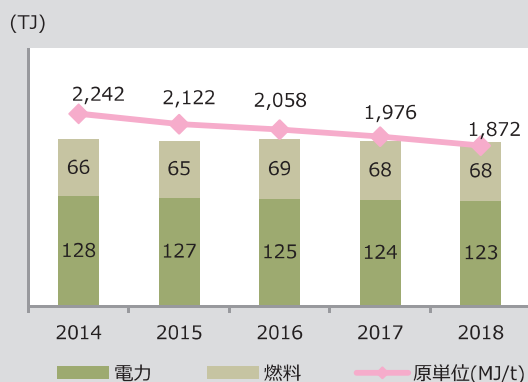


◆PRTR 報告 (第一種指定化学物質：仕込量 1 t/年以上)

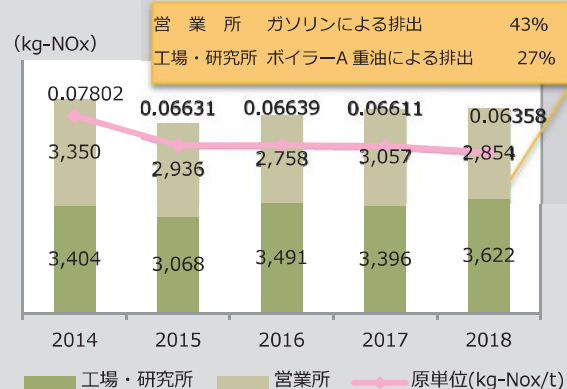
対象化学物質名	排出量・移動量の合計(kg/年)		前年比(%)
	2017	2018	
酢酸ビニル(モノマー)	4,653	4,675	100.5
メチレンビス(4, 1-フェニレン) = ジイソシアネート	1,126	1,134	100.8
有機スズ化合物	424	441	103.9
トルエン	624	425	68.0
メタクリル酸メチル	382	380	99.6
モノエタノールアミン	270	262	97.2
ノルマル-ヘキサン	221	219	99.4
アクリル酸ノルマル-ブチル	228	214	93.6
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	113	136	120.3
フタル酸ジ-ノルマル-ブチル[DBP]	126	115	91.2
1, 2, 4-トリメチルベンゼン	176	104	59.3
その他	362	454	125.4
合計	8,705	8,559	98

◆環境パフォーマンスデータ集

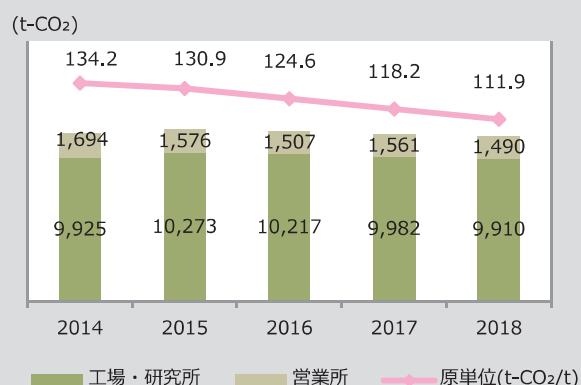
エネルギー消費量



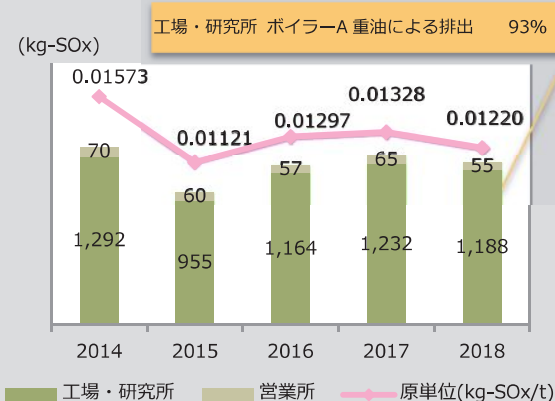
NOx 排出量



地球温暖化物質排出量



SOx 排出量

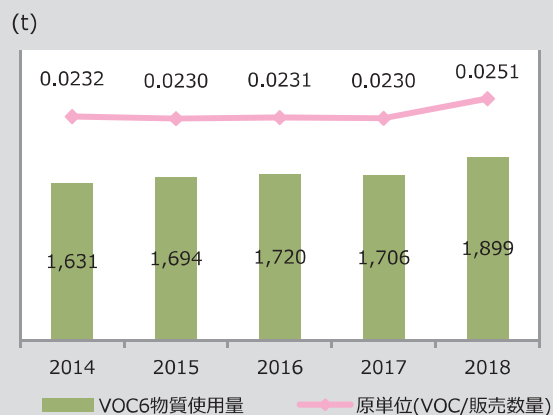


※地球温暖化物質：コニシグループでは、CO₂、メタン、一酸化二窒素を排出しています。

※2015年度滋賀工場の集計に誤りがあったため、2015年度の実績を修正して記載しております。

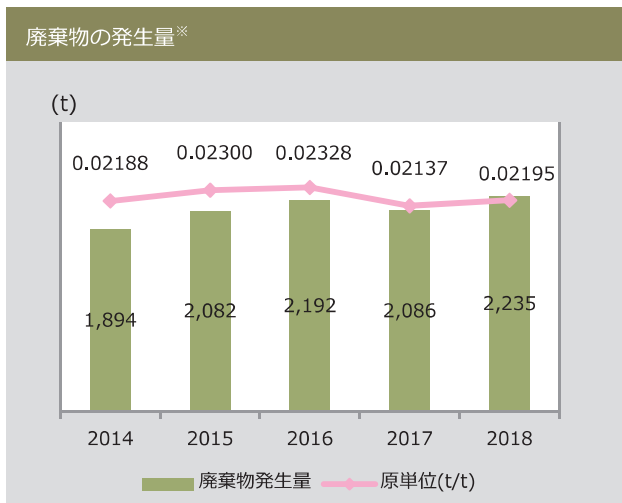
VOC※6物質使用量

	当社実績				
	使用量(t)				
	2014	2015	2016	2017	2018
トルエン	128	132	124	114	111
キシレン	3	2	3	3	2
酢酸エチル	657	665	678	626	680
メタノール	178	180	170	161	160
MEK	560	601	640	694	836
n-ヘキサン	106	114	105	108	110
合計	1,631	1,694	1,720	1,706	1,899



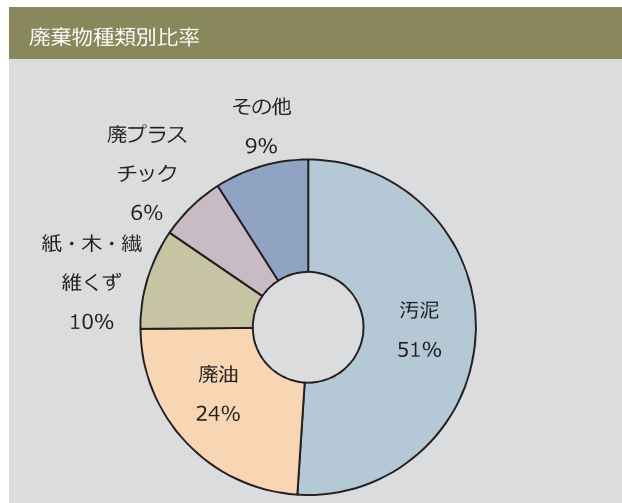
※VOC(揮発性有機化合物)：VOCとはVolatile Organic Compoundsの略語で、常温常圧で蒸発し空気中に容易に揮発する有機化合物の総称

◆廃棄物削減データ



※一般廃棄物を含めた発生量

※2015年度滋賀工場の集計に誤りがあったため、2015年度の実績を修正して記載しております。



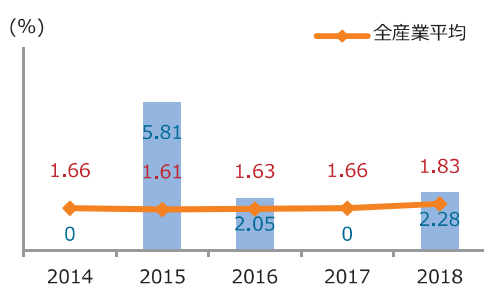
従業員と共に

働きがいのある、快適で安全な職場環境づくりをめざします。

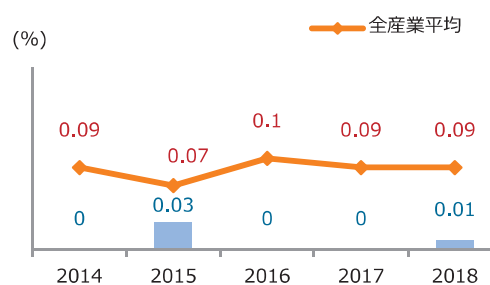
■労働安全衛生

当社では、「環境・安全に関する経営基本方針」を定め、環境保全と安全確保に努めています。工場・研究所では従業員が安全に働くことができる環境を提供することはもちろんのことであり、また工場・研究所の周囲に対しても環境・安全に配慮しています。また、コンプライアンスに努め、労働安全衛生関連法を遵守した運営を行っています。

◆度数率



◆強度率



※度数率、強度率は死亡または休業1日以上及び身体の一部または機能を失う労働災害による死傷者に限定して算出

■安全・衛生活動の取り組み

「労働災害ゼロ」をめざして安全活動に努めます。

2018年度も全工場で「無事故・無災害の継続」を方針に活動してまいりましたが、滋賀工場で5件の労働災害が発生しました。今後も全工場において再度情報の共有と安全作業への意識の啓発を行い、再発防止に努めます。2019年度はあらためて「労働災害ゼロ」を目標に日々安全活動の徹底に努めていきます。

従業員の心身健康づくりをサポートします。

各事業所において定期的に健康診断を実施し、従業員の健康管理を行っています。また、工場・研究所においては、対象者には必ず有機溶剤検診などの特殊検診を実施しています。有機溶剤を使用する作業所では局所排気装置等を備え、全ての工場で第1管理区分※となるよう環境管理の推進を継続していきます。加えて従業員のメンタルヘルス面のサポートも進めています。



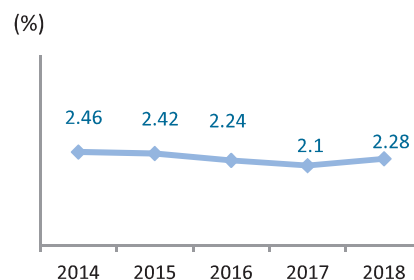
※第1管理区分：有機溶剤を使用する作業環境の区分。第1から第3にまで区分され、第1管理区分は作業場所であらゆる有害物質の濃度が管理濃度を超えない状態（適切であると判断される状態）

多様な人材の活用に取り組んでいます。

■障がい者の雇用促進

当社は、障がい者の雇用推進に取り組んでおり、2019年3月現在14名（障がい者雇用率：2.28%、重度障がい者含む）を雇用しています。障がいのある方がやりがいを持って働くことのできる場を多くの職場の中に創出していく支援をし、今後も引き続き障がい者雇用を推進していきます。

◆障がい者雇用率



■女性従業員の活性化推進

当社は、女性が働きやすい職場づくりを重視し、意欲のある女性が長期的に活躍できる環境の整備を積極的に進めています。2019年4月現在、5名の女性役職者を登用しており、引き続き女性の活躍の場を拡大するとともに、従業員自身の意欲を喚起する取り組みを継続していきます。

女性従業員支援のための諸施策

- 産前産後および育児期間の休暇制度
(休業、時短勤務、看護休暇、時間差通勤)
- スタッフ職キャリアデザイン研修



■人材育成・能力開発

OJTおよび各種研修による自律協働型人材の育成目標の設定から達成の各段階において、上司からの期待と役割および目標達成のための目的と手段を明確にするなど目標管理制度を円滑に運用することにより、人材の育成を図っています。

研修内容

- 目標設定研修
- 新任管理職研修
- OJT トレーナー研修

など



社会と共に

次世代育成をはじめ「ものづくり文化」の普及と「豊かな地域社会の創造」に貢献します。

■子ども囲碁大会協賛・夏休み工作コンテスト

子どもたちの「夢」「ものづくり」を応援しています。

当社では全国こども囲碁普及会主催の「全日本こども囲碁チャンピオン戦」へ特別協賛しております。囲碁を楽しむ子供たちが1人でも増えるよう応援してまいります。

また子どもたちからものづくりに親しみ、ものづくりの楽しさを感じてほしいという思いから、小学校向け工作サイト「ボンドキッズ」を運営し、「ボンド」を使った実験や工作レシピなどの情報を提供しています。さらに毎年「夏休み工作コンテスト」を開催するなど、「ボンド」に触れものづくりにチャレンジしてもらう企画を行っています。



■地域コミュニティとの連携活動

各工場での工場見学を実施しています。

(※一般公開はしておりません)

各工場では地域社会との積極的なコミュニケーションを図るため見学会を実施しています。また、滋賀工場では職場体験として地元中学生・高校生を受け入れました。今後も地域貢献の一環としてそれらの要請に応えながら、さらに地域に密着した企業をめざしていきます。



清掃ボランティア活動

滋賀工場・栃木工場では、毎年工場近隣の清掃ボランティア活動に参加しており、地域の清掃美化のお手伝いをしています。地域に密着した企業として、今後も地域の皆様とともに環境美化に取り組んでいきます。



接着剤を安全・上手に使うための『ボンド講習会』

多くの方に接着剤の特長と便利さを理解してもらい、安全に使用していただくためにさまざまな講習会の講師を務めています。小売店の販売員の方々を対象にした講習会はもちろんのこと、小学生を対象にした工作教室や地域活性化イベントに参加するなど接着剤に触れる機会を提供しています。また、化学メーカーとして、子どもたちが化学に興味を持ってもらえるような活動にも参加しています。

これからも「ボンド」のファンづくりはもちろんのこと、接着剤のパイオニアとして、一人でも多くの方に使用法を正しく理解してもらう啓発活動を継続して行っています。



お客様・投資家と共に

お客様や株主様のご意見を大切に、事業活動に活かしていきます。

■接着相談室

お客様のご質問・ご要望にお応えします。

接着剤の選定に関するご相談や、商品に対するご意見など、お客様との窓口として、当社の製品や接着剤に関する知識を備えた専門スタッフからなる「接着相談室」を大阪本社に設置しています。電話の他、Eメールや手紙で寄せられる消費者からのご相談に対し、迅速な対応、また一般消費者にもわかりやすいような説明を心がけています。



■研究開発・評価環境の充実

お客様のご要望・市場ニーズに迅速にお応えできるよう研究所での実験設備を整えています。



大阪・浦和の両研究所では、実際の環境に沿ったラインテストや、性能試験などが行えるよう実験設備を整備しています。浦和研究所には「土木建築

実験施設」を設置し、土木構造物・建築物外壁など、実際に行われる大規模な補修・補強工事を想定した製品開発が可能になっています。

■PR・メディアリレーション活動

CM・広告などを通じてコニシの多様な取り組みをお伝えします。

「ボンド 木工用」だけではなくコニシ株式会社の魅力をお伝えるために、CMや広告、展示会への出展を通じたPR活動を行っています。CMは針と糸が無くても、簡単に手芸ができる「ボンド 裁ほう上手スティック」をコミカルなストーリーで紹介しています。また、東京駅、新大阪駅の新幹線ホームへ「ボンド木工用」をメインビジュアルにしたLED電照看板を設置し、多くのステークホルダーへのPRを促進しております。

■株主・投資家とのコミュニケーション活動

「KONISHI REPORT 株主通信」の発行

株主の皆様にご理解いただけるよう年2回「KONISHI REPORT 株主通信」を発行しております。また、株主総会では映像の活用等、出席者の方々にわかりやすい説明を心がけており、株主総会終了後には、株主の皆様とのコミュニケーションが図れる懇談の場を設けています。



投資家向け説明会を実施しています。

毎年5月と11月に機関投資家に向けた決算説明会を開催しています。当社を取り巻く市場環境や、当社の取り組みについて正しく理解いただけるよう、決算概要や中期経営計画の進捗についての説明を行っています。



KONISHI REPORT 2019

CSR 報告書



大阪本社 〒541-0045

大阪市中央区道修町 1-7-1 (北浜コニシビル) TEL06(6228)2811

関東支社 〒338-0832

(旧東京本社) 埼玉県さいたま市桜区西堀 5-3-35

TEL048(637)9940

ホームページ [http : //www.bond.co.jp/](http://www.bond.co.jp/)

この環境・社会報告書に関するお問い合わせ先

コニシ株式会社 環境委員会 事務局 e-mail : konishi-ir@bond.co.jp